

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	社会科学概論	
科 目 担 当 者	河原塚 由紀	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
使 用 教 科 書	なし	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な福祉を中心とした社会科学諸分野の基礎的知識について学習し、現代社会の諸問題を総合的に把握し、卒業後の就労時に役立つ知識を身に着けることを目的とした授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は口頭での説明を中心に進め、各項目ごとに質問できる機会を設け知識の確認をします。大きなごとにまとめた資料を希望媒体で配布します。	
自己学習の進め方	配布するまとめ資料はあくまで抜粋ですので、講義にしっかり耳を傾けわからない用語などは授業中に質問するなどして確認して下さい。また普段からニュース等をチェックするなど学習内容にかかわる項目に興味をもつことでより理解がより深まりますし、また卒業後に活用できる知識として身に着くことと思います。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 31時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
高齢者福祉について		
・高齢化社会とは		1
・少子化問題など		1
高齢者に関するその他の制度について		
・後期高齢者医療制度		3
・その他		1
中間期チェック		1
介護保険について		
・制度の概要		3
・ケアマネージャー		3
・在宅サービスの種類		3
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
介護保険について		
・施設サービスの種類		1
・介護保険改正のポイント		2
・その他		1
国民年金について		
・年金の概要		3
・老齢基礎年金		3
中間期チェック		1
・障害基礎年金		2
・遺族基礎年金		1
・その他の年金制度		1
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	自然科学概論	
科 目 担 当 者	武田和男	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
使 用 教 科 書	印刷されたプリントや教室実験・ビデオ視聴	
使 用 参 考 書	「仮説実験授業」「永遠の生命」「発明発見物語」「歌う生物学」その他	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	科学史を通して、自然探求の成果が現代文化に与えた影響を知り、生命の奥深さを知り、自然理解を深め、理性の価値を認識することで、豊かな自然観を高めるよう展開します。	
授 業 の 展 開	毎時間印刷され用意されたテキストの音読による理解と、ビデオ教材の視聴、実験により授業を展開します。	
自己学習の進め方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 31時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
生物と細胞	2	
DVD驚異の小宇宙人体（生命誕生）	1	
細胞とその社会	2	
DVD驚異の小宇宙人体（骨格筋肉）	1	
細胞「私」を作る60兆個の力	2	
DVD驚異の小宇宙人体（消化吸収）	1	
永遠の生命 HeLa細胞	2	
笑いと免疫力	2	
歌う生物学1	2	
テスト対策	1	
前期テスト		
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
インフルエンザとウイルス	2	
ウイルスの謎を解いた人々	2	
筋肉の動く仕組みを探る	2	
石炭酸で傷口を洗う（消毒法）	1	
華岡青洲	1	
伝染病の原因を探せ	2	
沈黙の春	1	
北海汚染	1	
歌う生物学2	1	
遺伝子はダメなあなたを愛している	1	
テスト対策	1	
後期テスト		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学 I (運動学を含む)	
科 目 担 当 者	山本 浩二	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 解剖学 第2版	
使 用 参 考 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 生活と疾病 I B リハビリテーション医学 (基礎運動学編)	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な人体諸器官の位置・形態・構造とその運動について学び、これを施術に応用する能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、模型観察と身体運動を積極的に行っていただき、理解を深めていきます。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、提示される課題に取り組んで下さい。授業中における模型観察の時間が十分と思わなかった場合、自学自習サポート教室等を利用することをお勧めします。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	124時間
前 期 < 16 週 >	前期計	64
1. 人体の構成(区分と方向)		2
2. 運動器系(骨核、各関節)		
①総論		2
②脊柱		8
③胸郭		4
④上肢		8
⑤下肢		8
⑥頭蓋		8
3. 運動器系(筋)、基礎運動学		
①総論		2
②運動の基礎(てこと滑車)		2
③体の重心と姿勢		2
④体幹とその運動		10
⑤上肢とその運動		6
復習、その他		2
中間試験		
期末試験		

後 期 < 15 週 >	後期計 60
3. 運動器系（筋）、基礎運動学 ※前期続き	
⑤上肢とその運動	6
⑥下肢とその運動	10
⑦頭頸部とその運動	8
4. 神経系	
①総論	2
②中枢神経	12
③伝導路	6
④末梢神経	12
復習、その他	4
中間試験	
期末試験	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	解剖学Ⅱ	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能 解剖学 第2版	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 解剖学	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行います。その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。 学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	人体の構成を理解し、各器官の形態や構造を学び、統一体としてのつながりを学ぶ。人体を扱う実際の現場に必要な知識を習得することを目的とする。 人体を扱う実際の現場に必要な知識を習得することを目的とする。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。 授業は教科書の内容に沿って行い、模型観察を中心に進めます。 小单元ごとに教科書内容を確認し知識の確認をします。	
自己学習の進め方	教科書を基に資料を作成し配布します。配布資料を精読して、自分なりに理解を深めて下さい。自学自習サポート教室等を活用し、授業内容や模型観察の理解を深め問題解決に努めましょう。	
授 業 内 容 (予 定)		合計 93時間
前 期 < 16 週 >		前期計 48
第1章 人体の構成		18
第2章 循環系 (心臓まで)		9
第3章 呼吸器系		9
第4章 消化器系		10
中間試験		
中間試験の講評		1
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >		後期計 45
第5章消化と吸収		10
第6章栄養と代謝		9
第7章体温		9
第8章排泄		9
まとめと問題演習		8
中間試験		
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	生理学 I	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能生理学第2版	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 生理学	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	生理学は体の正常な働きについて学習する科目です。生理学 I では生理学の基礎、循環、呼吸、消化と吸収、代謝、体温、排泄について学習します。正常な体の働きを理解しているからこそ、異常(疾病)を理解できるようになります。また、あはき施術の作用機序を理解するための基礎知識ともなる重要な科目です。	
授 業 の 展 開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や2年生以降で学習する臨床系の科目との関連性を意識した知識も教授します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。	
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	62時間
前 期 < 16 週 >	前期計	32
第1章 生理学の基礎		8
第2章 循環		12
第3章 呼吸		10
中間試験		
期末試験		
講評		2
後 期 < 15 週 >	後期計	30
第4章 消化と吸収		12
第5章 代謝		5
第6章 体温		5
第7章 排泄		6
中間試験		
期末試験		
講評		2

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	関係法規	
科 目 担 当 者	阿部 博明	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
使用教科書	医療と社会 改訂第7版	
使用参考書	配布資料	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律及び、医療関係法規の基礎的知識について学習し、施術者として法に則した業務を行う能力と態度を習得することを目標とします。	
授 業 の 展 開	授業は教科書を中心に進めます。授業の冒頭では、前回の授業の要点を復習します。授業の終了前には、本日の授業の要点をまとめます。国家試験の過去問を使い、随時、問題演習を行います。	
自己学習の進め方	まとめ資料を配布します。この資料はあくまでもポイントを記載したものですので、教科書の関連する単元を良く読み、前後の文章などを確認しながら、復習に活用してください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 31時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 16	
1. 導入		
(1) 法の体系とあはき法の構成		
(2) 受験手続きから免許までの流れ		2
2. あはき法制の沿革		1
3. あはき法		
(1) 免許		2
(2) 試験に関する事		1
(3) 欠格事由		2
(4) 免許に関する事		3
(5) 業務に関する事		3
(6) 施術所等に関する事		2
中間試験		
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
3. あはき法(続き)		
(6) 施術所等に関する事(続き)		2
(7) 広告の制限		2
(8) 罰則		2
(9) 医業類似行為		1
4. 関係法規		
(1) 医療法と医師法		1
(2) 保健師助産師看護師法		2
(3) 理学療法士及び作業療法士法		1
(4) その他の医療関係法規		1
5. 福祉制度と医療保険制度		3
中間試験		
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	東洋医学概論 I	
科 目 担 当 者	阿部 博明	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	基礎理療学 I (東洋医学概論) 改訂第6版 日本理療教科教員連盟教科書委員会編	
使 用 参 考 書	新版 東洋医学概論 東洋療法学校協会編	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	東洋医学概論 I は東洋医学系学科の基礎知識として、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅうの施術や今後の学習において必要不可欠な科目です。東洋医学の基礎理論(考え方、実践の仕方)を学習します。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業の終了時には本日の授業の要点をまとめます。授業は教科書を中心に進め、要点を詳しく説明します。既習内容については国家試験の過去問を使って知識の確認を行います。	
自己学習の進め方	復習の時間を確保し、授業でまとめた要点を中心に知識の定着に努めてください。単に暗記するだけでなく、東洋医学的な意味を繋げて内容の理解にも努めて下さい。本科目は、中国二千年に裏打ちされており、たいへん奥が深いです。聞きなれない専門用語や独特の解釈などが多いため、理解しにくいと思います。学習する中でわからないところがあっても曖昧にせず、教科書を見直しして問題解決に努めて下さい。 メールでの質問にも対応しますので、一緒に問題を解決しましょう。 問題を解決すると、知識の定着にも繋がり、東洋医学が好きになると思います。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 62時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
ガイダンス	1	
第1編 東洋医学の基礎理論		
第1章 東洋医学の意義と特徴	4	
第2章 陰陽論五行論		
第1節 陰陽論	4	
第2節 五行論	8	
第2編 東洋医学の生理観		
第1章 東洋医学における人体の構成	2	
第2章 気・血・津・液・精・神の生理	8	
第3章 臓腑	3	
まとめと問題演習	2	
中間試験		
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 30	
第3章 臓腑	14	
第4章 経絡と経穴	12	
まとめと問題演習	4	
中間試験		
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	経絡経穴概論 I	
科 目 担 当 者	佐藤浩輔	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	東洋療法学校協会編「新版 経絡経穴概論(拡大版第2版)」	
使 用 参 考 書	-	
評 価 方 法	前期、後期ともに、中間期に実技試験(90%)と口頭試験(10%)、期末に筆記試験(90%)と口頭試験(10%)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得の要件です。	
科目の概要と学習の目的	あん摩マッサージ指圧師として必要な経絡経穴の基本的事項について、東洋医学との両面から考察し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う授業です。	
授 業 の 展 開	十四経脈に所属する経穴361穴の部位と取穴法を理解して、主要な経穴を実際に取穴できるようにします。前期は任脈から手の太陽小腸経の177穴、後期は足の太陽膀胱経から足の厥陰肝経の184穴を学習します。	
自己学習の進め方	各経脈の講義に入る前に、所属する経穴を所定の順に「音」で記憶していることが理想的です。経穴を正しく音読し、担当教官の前で暗唱ができるよう予習に取り組んでください。十四経脈の所属経穴の部位と取穴法を簡便に記した資料を作成し、それを用いて講義を進めます。講義中は配布資料の内容を確認し、講義後は実際に自分の身体で経穴を指し示しながら定期的に復習することで、部位と取穴法の理解に努めてください。また、理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 93時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 48	
1 経絡経穴の概要		
十二正経、奇経八脈、経穴の概要、取穴法	3	
2 主な経穴(十四経の主な経穴名と部位)		
ア. 督脈	6	
イ. 任脈	6	
ウ. 手の太陰肺経	3	
エ. 手の陽明大腸経	5	
オ. 足の陽明胃経	9	
カ. 足の太陰脾経	7	
キ. 手の少陰心経	2	
ク. 手の太陽小腸経	7	
中間試験(実技・口頭試験)		
期末試験(筆記・口頭試験)		
後 期 < 15 週 >	後期計 45	
2 主な経穴(つづき)		
ケ. 足の太陽膀胱経	13	
コ. 足の少陰腎経	6	
サ. 手の厥陰心包経	4	
シ. 手の少陽三焦経	6	
ス. 足の少陽胆経	10	
セ. 足の厥陰肝経	6	
中間試験(実技・口頭試験)		
期末試験(筆記・口頭試験)		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習 I (あん摩実技)	
科 目 担 当 者	山本 浩二	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	4単位・120時間	
使 用 教 科 書	都立文京盲学校 理療科研究会著 保健理療基礎実習 第2版	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	各学期末に実技試験を実施します。実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。学年末は前期及び後期の平均点を評価とします。(平均点小数点以下切り捨て)	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要なあん摩施術に関する基礎的な知識と技能について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	配布資料の内容に沿って授業を進め、教官が全体デモと各人に施術をします。その後、教官に施術を行い、習得度を確認します。基本的に利用者同士でペアになり、お互い施術をしていきます。	
自己学習の進め方	指作りを心掛け、何人・何時間と施術ができる体力を身につけましょう。また、医療従事者として健康に留意し、清潔であるように努めて下さい。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	128時間
前 期 < 16 週 >	前期計	68
1. 導入		2
①あん摩の意義		
②施術に必要な人体各部の名称		
③授業に際しての注意事項		
2. 基本手技の紹介		8
3. 座位での肩背部のあん摩		22
4. 側臥位での肩背腰部のあん摩		16
5. 側臥位での上肢のあん摩		14
復習・その他		6
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計	60
6. 側臥位での頸部のあん摩		8
7. 側臥位での下肢のあん摩		14
8. 腹臥位でのあん摩		20
復習、その他		17
期末試験		
臨床見学実習		1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ（マ実）	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使用教科書	盲学校教科書編纂委員会編 保健理療基礎実習	
使用参考書		
評価方法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。 その成績を当該学期の評価点とします。学年末評価は前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	マッサージは、術者の手指を以って患者の皮膚に直接触れて行う手技です。滑りやすくするために粉（タルク）やオイルを使います。手技で強弱の刺激を生体に加え、変調を整え健康を保ち増進させる施術です。 マッサージの基本手技の修得を目標とします。	
授業の展開	冒頭、前回の復習後に、今回の実技内容についてデモを交えて説明します。それを踏まえて利用者間で練習している所を教官が個別に確認、教授します。授業の終了前に床面のタルクの除去等、実習室の軽い清掃を行います。	
自己学習の進め方	マッサージの手を作ることから始めます。施術部に施術者の手を密着させながら手技が出来るように練習をします。繰り返し練習することによって、手と指先の感覚が養われ、手がつくられていきます。 皮膚上から直接触れてマッサージを行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。	
授 業 内 容 (予 定)	合計 62時間	
前 期 < 16 週 >	前期計 32	
I イントロダクション	3	
・マッサージの意味と変遷		
・基本手技		
II 身体各部位のマッサージ		
1. 前腕	12	
2. 下腿	12	
3. 足部	4	
期末試験		
見学実習	1	
後 期 < 15 週 >	後期計 30	
II 身体各部位のマッサージ（続き）		
4. 膝関節	6	
5. 足関節	6	
6. フットマッサージ	6	
7. 肩関節	6	
8. 顔面	6	
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ（指圧実技）	
科 目 担 当 者	関矢 稔	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	保健医療基礎実習（東京都立文京盲学校理療科研究会著）	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	期末試験で評価します。習熟度を確保するため各学期に中間期評価を行います但成績には含めません。	
科目の概要と学習の目的	指圧は術者の徒手を用いて患者の身体の一定部位を押圧することにより、生体機能を調整し、健康の保持・増進を図る手技療法です。この科目では指圧の基本となる押圧動作について、体重移動により必要十分な加圧が安定して行えるようになることを第一の目標としています。	
授 業 の 展 開	実技指導において、目視での確認が難しい方には教官の手や体に触れてもらいながらその動きをイメージしていただきます。また随時、教官が被術者となり各自の技術を点検・修正しながら習熟を目指していきます。後期にはセンター近隣で開業している施術所を見学する機会を設け、卒後の進路計画の一助としていただきます。	
自己学習の進め方	「押す」という動作を安定して行うためには手指や腕だけではなく体幹の筋肉を「押せる」状態に育てる必要があります。日頃から基礎体力訓練として腕立て伏せ等で「押す」ための筋力を鍛えておくことをお勧めします。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	62時間
前 期 < 16 週 >	前期計	32
ガイダンス説明		1
押圧の基本動作と基本手技		13
伏臥位（腹臥位）の指圧		15
中間期評価・講評		2
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	30
伏臥位（腹臥位）の指圧		13
仰臥位（背臥位）の指圧		13
施術所見学実習		1
中間期評価・講評		2
期末試験		
期末試験の講評		1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習 I (はり実習)	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第4版	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに期末に実技試験を実施します。 実技試験80%、通常の授業態度20%で評価します。その成績を当該学期の評価点とします。 学年末評価は前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。 この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として、安全かつ衛生的に鍼施術を行う為の基礎的な知識・技能の習得、医療人としての基本的な態度を養うことを目標とします。 鍼施術を行う上での注意点や過誤・副作用・事故への対処法についても学習します。	
授 業 の 展 開	冒頭、前回の復習後に、今回の授業の内容と注意事項を説明します。 それを踏まえて利用者間で練習している所を教官が個別に確認、教授します。 反復練習に重点を置き、習熟度を確認しながら進めます。	
自己学習の進め方	皮膚上から直接触れて施術を行う者として、手指のケアに努め、清潔保持に注意します。鍼実技は、解剖学や経絡経穴概論に関連する学習内容も含まれていますので、積極的に当該科目の復習を行ってください。出血や感染症等、事故の危険があるため、授業時間以外は人体への刺鍼は行わないでください。練習方法は授業のときに提示します。人体への刺鍼練習をしたい場合には、担当教官が立ち会いますので、お声がけください。	
授 業 内 容 (予 定)	合計	93時間
前 期 < 16 週 >	前期計	48
1 衛生管理(実習室の清掃、手洗い、消毒、器具の取扱い等)	4	
2 リスク管理(刺鍼用具、ベッド等)	3	
3 鍼の術式(片手挿管)	7	
4 練習器への刺鍼	10	
5 前消毒～後消毒	3	
6 ステンレス鍼による身体各部位への刺鍼(下肢・上肢・腰部)	7	
7 銀鍼による身体各部位への刺鍼(下肢・上肢・腰部)	5	
8 見学実習	3	
9 随時試験と講評	3	
10 期末試験		
11 評価のフィードバック	3	
後 期 < 15 週 >	後期計	45
12 ステンレス鍼による身体各部位への刺鍼(背部、頭頸部、顔面部を加える)	15	
13 銀鍼による身体各部位への刺鍼(頸肩部、背部を加える)	12	
14 現行17手技	12	
15 随時試験と講評	3	
16 期末試験		
17 評価のフィードバック	3	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程1年	
科 目	はりきゅう基礎実習Ⅱ（きゅう実習）	
科 目 担 当 者	古賀英樹	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使用教科書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床 改訂第4版	
使用参考書		
評価方法	前期・後期ともに学期末試験（80％）と平常点（20％）で評価します。 学期末試験は、実技試験を実施します。 平常点は、授業態度と各学期中に行う随時試験の結果を加味して算出します。 前期・後期の平均点を学年末評価とします。	
科目の概要と学習の目的	施術者として、安全かつ衛生的に灸施術を行うための基礎的な知識・技能の習得、医療人としての基本的な態度を養うことを目標とします。 生体観察の基本及び身体各部位（常用する経穴）への灸施術に際しての注意点や過誤・副作用・事故への対処法についても学習します。	
授業の展開	授業の冒頭に、本日の授業の目的と注意事項を説明します。良く聞き、理解できないときには質問してください。 正確な灸施術の習得には、繰り返しの練習が必要です。反復練習に重点を置き、習熟度を確認しながら進めます。 授業進行中、不明な点がありましたら、その場で解決に導けるように説明しますので、遠慮なく質問してください。	
自己学習の進め方	この実習で身につける知識・技能は、解剖学や経絡経穴概論に関連する学習内容も含まれていますので、積極的に当該科目の復習を行ってください。 やけどや火災の危険があるため、授業時間以外は火を扱わない練習を行ってください。練習方法は授業のときに提示します。火を扱う練習をしたい場合には、担当教官が立ち会いますので、遠慮なく声をかけてください。	
授 業 内 容	(予 定)	合計 62時間
前 期	< 16 週 >	前期計 32
1 施術への導入（オリエンテーションを含む）		4
施術者としての心構え（身だしなみ）		
施術室の管理		
衛生管理（手洗い、器具の洗浄、廃棄物の取り扱い等の感染防止策）		
リスク管理の基本（過誤・副作用・やけどへの対応・AEDの確認等）		
灸の基礎知識（用具の確認）		
2 台座灸への点火と施灸		4
3 線香への点火		4
4 もぐさの製造方法（DVDの視聴）		2
5 知熱灸艾柱（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸		6
6 反復練習、試験対策練習		6
7 随時試験とフィードバック		4
8 期末試験		
9 評価のフィードバック		2
後 期	< 15 週 >	後期計 30
10 知熱灸（母指頭大・小指頭大）のひねりと点火・施灸の復習		4
11 知熱灸・透熱灸（小豆大・米粒大・半米粒大）のひねりと施灸		6
12 隔物灸（生姜・大蒜・塩）による施灸		6
13 反復練習、試験対策練習		8
14 随時試験とフィードバック		4
15 期末試験		
16 評価のフィードバック		2

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。